
平成30年度 病害虫発生予報 第1号

平成30(2018)年4月20日
栃木県農業環境指導センター

○天候の変化に注意し、野菜類病害虫の発生増加を防ぎましょう！

予想期間 4月下旬～5月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
 - (2) 根拠
 - ・現在の発生量は平年並(平年比79.5%：ほ場率、平年比58.0%:株率)。(±)
 - ・向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並の見込み。(±～+)
 - (3) 対策
 - ・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
 - ・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤を活用する。
 - ・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。
 - ・また、葉・果実の傷みを防ぐため、乾きにくい雨天日等の散布を避ける。
 - (4) 備考
 - ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。
-

2 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
 - (2) 根拠
 - ・現在の発生量は平年並(平年比106.4%：ほ場率、平年比122.0%:花率)。(±)
 - ・向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並の見込み。(±～+)
 - (3) 対策
 - ・ハウス内の雑草はアザミウマ類の増殖源になるので除草する。
 - ・花を観察して、その1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、スピノエース顆粒水和剤かディアナSCを散布する。
 - (4) 備考
 - ・スピノエース顆粒水和剤やディアナSCは、天敵やミツバチへの影響があるので注意する。
 - ・[H29年度植物防疫ニュース\(速報No.13\)](#)、[病害虫防除対策のポイント\(No. 19\)](#)を当センターHPに掲載中。
-

3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
 - (2) 根拠
 - ・現在の発生量は平年並(平年比78.4%：ほ場率、平年比54.5%:株率)。(±)
 - ・向こう1か月の降水量及び日照時間は平年並の見込み。(±)
 - ・当センターの予察調査において、一部ほ場で茎での発病が認められる。(＋)
 - (3) 対策
 - ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
 - ・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - ・予防を基本とし、フルピカフロアブル等を散布する。発生が見られたら、ピクシオDF等を散布する。
 - (4) 備考
 - ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。
-

4 たまねぎ ベと病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
 - (2) 根拠
 - ・現在の発生量はやや多い(ほ場率62.5%、株率1.3%)。(＋)
 - ・向こう1か月の降水量及び日照時間は平年並の見込み。(±)
 - (3) 対策
 - ・排水対策を行う。
 - ・ジマンダイセン水和剤、ザンプロDMフロアブル等を散布する。
 - ・曇雨天が続くと予想される場合は降雨前に薬剤を散布する。
 - (4) 備考
 - ・気温15℃くらいで雨が多いと発生が多くなる。
-

5 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比108.2%：ほ場率、平年比72.9%：株率)。(±)
・向こう1か月の気温は高く日照時間は平年並の見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。
・葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やマイトコーネフロアブル(ナミハダニ)等を散布する。
- (4) 備 考 ・薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。

6 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
いちご	灰色かび病	少	少	トマト	コナジラミ類	平年並	平年並
	うどんこ病	少	少	きゅうり	べと病	やや少	やや少
	アブラムシ類	やや多	多		うどんこ病	やや多	やや多
トマト	葉かび病	やや少	やや少		アザミウマ類	少	やや少

春の病害虫防除対策

○麦類 赤かび病

・出穂や開花状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いましょ。

[植物防疫ニュース\(速報No.1\)](#)を当センターHPに掲載中。

○いちご親株床

・いちごの収穫作業や水稲作業等が重なる繁忙期ですが、親株床での病害虫発生にも注意しましょ。また、本ぼと親株床の管理作業を分け、本ぼからの病害虫の持ち込みを避けましょ。

○トマト コナジラミ類、キュウリ アザミウマ類

・気温の上昇に伴い、施設内で越冬したコナジラミ類やアザミウマ類が急増するおそれがあります。コナジラミ類やアザミウマ類を野外に出さないよう、防除を徹底しましょ。特に、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病を媒介するため、注意が必要です。また、施設栽培では、栽培終了時にすべての株を地際から切断した上で蒸し込み処理を行い、寄生している害虫を完全に死滅させ、外部への拡散を防ぎましょ。

○なし 黒星病

・一次伝染時期となるりん片脱落期から開花期は最重要防除時期です。果そう基部病斑(芽基部病斑)の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に治療効果があるDMI剤を散布しましょ。また、開花期から展葉初期に降雨が多く、開花から2週間以内に黒星病の発生が散見される場合は、多発の危険がありますので注意しましょ。

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょ！

○同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょ。

○花粉媒介昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょ。

1か月気象予報(予報期間4月21日から5月20日 4月19日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
○気温	10%	20%	70%
○降水量	30%	40%	30%
○日照時間	30%	40%	30%

詳しくは農業環境指導センター(TEL 028-626-3086)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jpnn.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。